

平成 28 年熊本地震での熊本県立大学における 安否情報システムの活用

鍋田 真一^{1,2} 湯瀬 裕昭² 澤田 道夫³ 相良 宗臣³

静岡学園高等学校¹ 静岡県立大学経営情報学部² 熊本県立大学総合管理学部³

1 はじめに

静岡県立大学では、東海地震に備え、1999 年に安否情報システムを試作し[1]、その後も改良と運用を行ってきた。また、2011 年発生した東日本大震災をきっかけに、安否情報システムの機能や安否確認項目の見直しなどを行い、新たに軽量の安否情報システムを開発し、運用している[2]。そして平成 28 年熊本地震の際に、熊本県立大学に安否情報システムを提供した。提供にあたっては、熊本県立大学向けのカスタマイズを行い、新たな確認項目の追加などを行った。

本稿では、熊本県立大学へ提供した安否情報システムの概要や熊本県立大学での利用状況について報告する。また、熊本県立大学での安否情報システム利用に関するアンケート結果についても述べる。

2 熊本県立大学へのシステム提供の経緯

平成 28 年熊本地震の本震後、熊本県立大学は電話で学生に連絡を取り、安否を確認していた。平成 28 年 4 月 18 日に筆者の一人である湯瀬が熊本県立大学を訪れ、安否情報システムの提供を申し出た。余震が頻発し、再度大きな地震が起こる可能性も考えられることや、大学側が授業再開に向けて学生の状況や意向などを把握したいなどの理由により、静岡県立大学が開発した安否情報システムを熊本県立大学で利用することになった。

3 熊本県立大学向けの安否情報システム

熊本県立大学に提供した安否情報システム（以下、熊本版）は、東日本大震災後に静岡県立大学で新たに開発した安否情報システムの一つが元になっている。新たに開発した安否情報システムは、以前の安否情報システムと同様に安否情報の登録の際にユーザ認証を行う静岡県

立大学向けの安否情報システム（以下、静岡版）と、ユーザ認証を行わないで情報を登録する大阪府立大学向けの安否情報システム（以下、大阪版）の 2 種類を開発した。熊本県立大学向けに安否情報システムのカスタマイズは大阪版を元に行った。

3.1 静岡版・大阪版の概要

東日本大震災をきっかけに、安否情報システム利用に際して次のような想定を行い、全面的にシステムの作り直しを行った。安否情報システムは、通常の情報システムが利用できないような大災害時に利用するため、停電や機器の破損などを考慮する必要がある。そして、利用者として大学の学生と教職員を想定する。そのため大規模災害が起こった後に大学が教育や研究などの業務をいつからどのような形で再開するかの判断するための基礎データの収集や、学生と教職員への連絡手段として利用することも考えた。これらの検討をもとに、静岡県立大学では、軽量の安否情報システムを開発した[2]。

また、大阪版はユーザ認証を無くした。認証時に用いられる学生番号等は忘れられていることが多いため、認証を無くすことで、必須項目入力不足以外のエラーを減らし、登録が容易になる。そして本人確認及び照合は、登録情報を基に人間が確認する。

3.2 熊本版の概要

熊本版は大阪版をもとに静岡県立大学側でシステムのカスタマイズ及びクラウドサーバやドメイン等の運用に必要な資源の提供を行い、4 月 26 日に熊本県立大学において運用を開始した[3]。熊本版のトップページを図 1 に示す。

熊本県立大学では、システム運用開始時点で当面の授業再開を 5 月 9 日としていた[4]ため、熊本版においては、「5 月 9 日からの登校が可能かどうか」を確認にする項目、そして「不可能な場合はその理由」を記入する項目を追加した。また「現在の住まい」を確認する項目も追加した。このように、授業再開に関する項目を追加し、本来の利用想定の一つである学務再開補助としての側面も強く意識した。

Utilization of Safety Information System at Prefectural University of Kumamoto in the 2016 Kumamoto Earthquake
Shinichi NABETA^{1,2} Hiroaki YUZE²
Michio SAWADA³ Muneomi SAGARA³
1 Shizuoka Gakuen High School
2 School of Management and Information,
University of Shizuoka
3 Faculty of Administration,
Prefectural University of Kumamoto

熊本県立大学安否情報システム

—大学からのお知らせ 2016年04月26日 掲載—

大学では、安否確認と今後の授業再開に向け準備を行っています。
既に先生方や大学に安否の報告をいただいている方も、このシステムを利用しての報告をお願いします。

安否情報の入力 (①~⑥全部を入力してください)

①学籍番号(不明な場合は00を入力)

②氏名(カナ入力)

③誕生日
□月 □日

④安否の状態
○無事 ○軽傷 ○重傷

⑤5月9日からの登校
○可能 ○不可能
※「不可能」な場合の理由
(例：アパート全壊(半壊)、JR不通、バス不通)

⑥現在の住まい
(例：自宅、避難所、車中泊)

登録

図1 熊本版システムトップページ

4 熊本版システムの利用状況

提供初日である4月26日14:00からの安否情報登録の推移を図2に示す。縦軸は安否情報登録数、横軸は経過日数である。

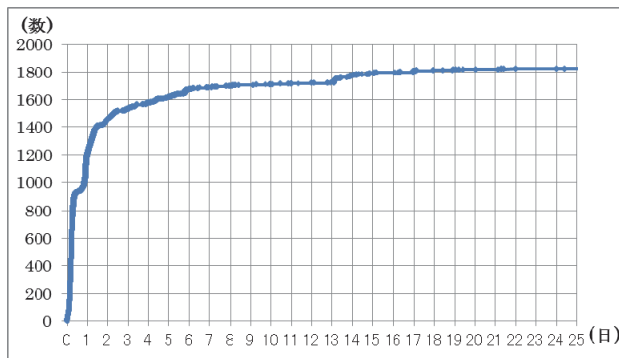


図2 4月26日からの安否情報登録の推移

図2を見ると、登録開始1日(27日14:00まで)の登録が多く、開始25日(5/21 14:00)までに登録された安否情報の65.7%、授業再開日が決定された5月2日[4]までに登録された安否情報の73.3%であった。

5 熊本版システム利用に関するアンケート結果

熊本版のシステム利用に関するアンケート結果を表1に示す。本結果は、熊本県立大学側で実施された「熊本地震におけるボランティア活動及びSNS利用に関するアンケート」の設問の1つとして行われた「Q21 安否情報システムは使いやすかったですか」の回答をまとめたもの

である。アンケート対象者は、熊本県立大学の全学部生(総数2134名)である。実施期間は2016年7月11日から7月29日までで、920名から回答を得た。また、本設問における有効回答数は無回答数13を除いた907であった。

表1 安否情報システムは使いやすかったですか

設問	回答者数 (%)
とても使いやすかった	63 (6.9%)
使いやすかった	439 (48.4%)
少し使いづらい	113 (12.5%)
とても使いづらい	17 (1.9%)
使わなかった、分からない	275 (30.3%)
計	907 (100.0%)

回答者の約7割が安否情報システムを利用したと答えている。また、利用者の8割が「とても使いやすかった」、「使いやすかった」と答えている。その他、本アンケートのSNS利用に関する自由記入欄において安否情報システムについての回答として、「あまりよろしくないと思いましたQ21について(原文ママ)」や「安否情報システムが作られるのが少し遅かったかな、と思った。電話での確認は負担もかかるし難しいと思う。」という意見があった。

6 おわりに

本稿では、平成28年熊本地震での熊本県立大学における安否情報システムの活用についてまとめた。今回の研究で得られた知見をもとに、今後、安否情報システムのさらなる改良を行っていく。また、大規模災害に備えて、安否情報システムの他大学への提供を継続したいと考えている。

参考文献

- [1] 清水澄明, 湯瀬裕昭, 柴田義孝, 鈴木直義: インターネットを利用した学生の安否情報確認システム, 2000年電子情報通信学会総合大会, B-7-96, 2000
- [2] 湯瀬裕昭, 鍋田真一: 軽量の安否情報システムの開発, 経営情報イノベーション研究, Vol.3, pp.33-40, 2014
- [3] 静岡県立大学「熊本県立大学への安否情報システムの提供」
http://www.u-shizuoka-ken.ac.jp/news_topics/news20160427/index.html (2016/12/20 確認)
- [4] 熊本県立大学「【重要】授業再開日その他各種お知らせ(地震関係)(5/6更新)」
<http://www.pu-kumamoto.ac.jp/news/detail.php?id=50> (2016/12/20 確認)